

### 資料③

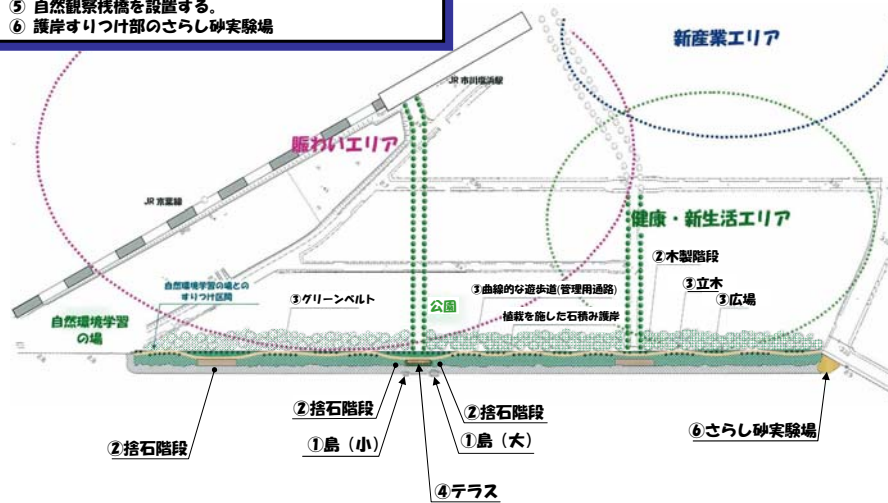
#### 護岸検討委員会の資料

= これまでの検討内容と具体的な構造イメージ =

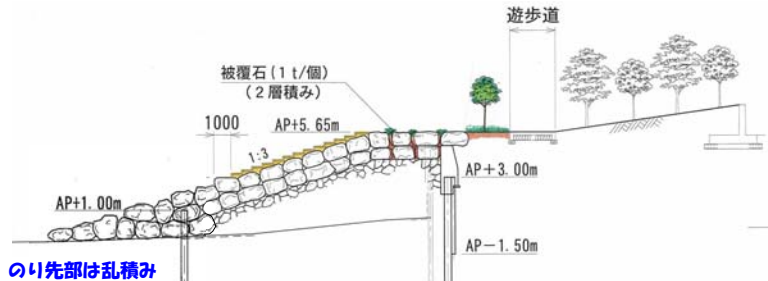
### 資料③：護岸検討委員会の資料：配置の一例

□平面デザイン（検討中）を踏まえたバリエーションの提案

- ① シンボリックなスポットを造る。
- ② 水際へのアクセスができるように階段部を造る。
- ③ マウンドを含めた一体的な整備を図る。
- ④ 段差を利用したテラスを造る。
- ⑤ 自然観察橋樑を設置する。
- ⑥ 護岸すりつけ部のさらし砂実験場



**資料③：護岸検討委員会の資料：  
護岸バリエーション(1)階段(木製)**



のり先部は乱積み

**計画概要**

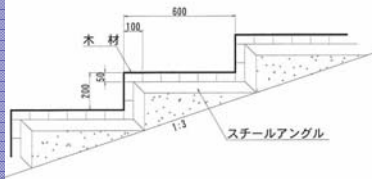
- 階段の範囲は、潮位や波の影響をふまえて、天端からA.P. +3.0mまでとする。
- 階段部は、断面の勾配(1:3)に合わせて、段差20cm、幅60cmで計画する。
- 階段部は、基本断面上にアングル等でつくり、しっかりと固定する。

**メリット**

- アクセスしやすい場所がで利用面が向上する。
- 階段部はベンチ代わりになる。

**デメリット**

- 木製部の耐用年数が短く維持管理が必要。
- 石積み部の沈下等による変形への対策が必要。



**資料③：護岸検討委員会の資料：  
護岸バリエーション(2)階段(自然石)シンボルウォーク**



階段の施工イメージ



のり先部は乱積み

**計画概要**

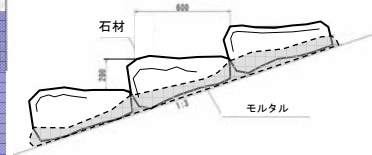
- 階段の範囲は、潮位や波の影響をふまえて、天端からA.P. +3.0mまでとする。
- 階段部は、歩きやすい段差や幅とするために、やや小さめの石材によってつくる。
- 階段部が被災しないよう、コンクリートの版をつくり、その上に石材をモルタルで固定する。

**メリット**

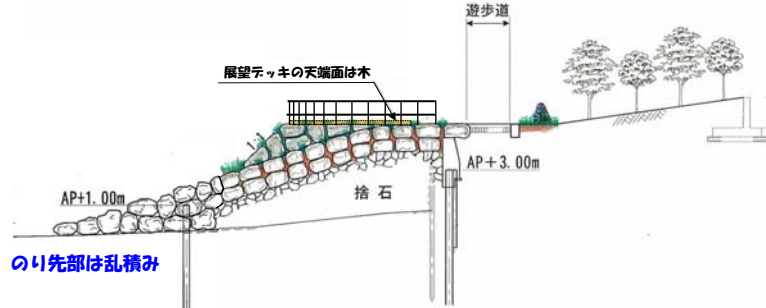
- アクセスしやすい場所がで利用面が向上する。
- 階段部はベンチ代わりになる。

**デメリット**

- 石積み部の沈下等による変形への対策が必要。



**資料③：護岸検討委員会の資料：**  
**護岸バリエーション(3)展望デッキ シンボルゾーン**



**計画概要**

- 石積み部の中段 (A.P. +3.0m) から石材を積み上げてデッキをつくる。
- デッキの天端面には木板を貼りボードウォークの形態とする。
- デッキを形づくる石積み部も植栽を試みる。

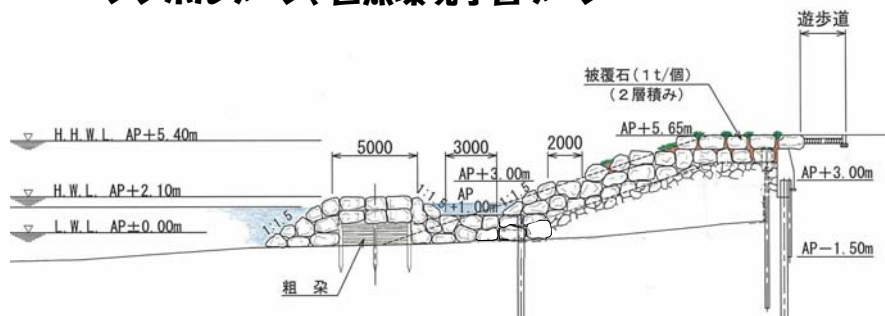
**メリット**

- シンボリックな場所となる。
- 海域を展望できる場所ができ、利用面が向上する。

**デメリット**

- 木製部の耐用年数が短く維持管理が必要。
- 石積み部の沈下等による変形への対策が必要。

**資料③：護岸検討委員会の資料：**  
**護岸バリエーション(4)島**  
**シンボルゾーン、自然環境学習ゾーン**



**計画概要**

- のり面の被覆石を乱積みにして全体的に磯場的な形態づくりを図る。
- のり先部に水路、島を形成し、潮位に応じて地形の変化づくりを図る。
- 島は粗朶による基礎を考える。

**メリット**

- シンボリックな場所となる。
- 観察や磯遊び等ができる場所となる。

**デメリット**

- ゴミが集まりやすい形状となる。
- すべり、転落等に対する安全面の配慮が必要。